

ハイキングの目的

美しい自然と接しながら、平素の実習を行いつつ、観察力を練磨し、協力と友情によって、グループ意識の昂揚を図り、心身を鍛練する。

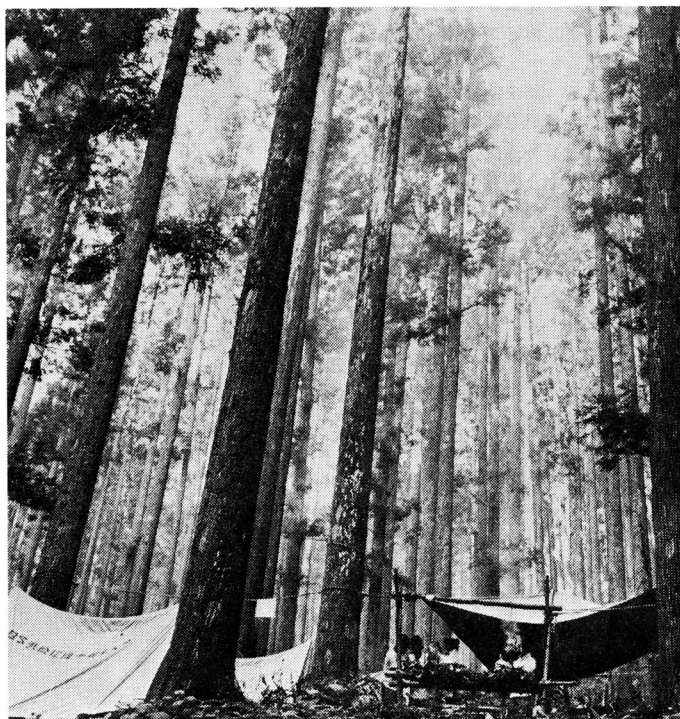
そして、いつでも楽しい雰囲気終始する。



ハイキングの語源

英国の古語であるが、約60年前に英国のボーイスカウトが採り上げたものである。

日本では徘徊とか、行脚とかいって、芭蕉や西行法師、役の行者等のそれが有名である。



キャンプ場の朝

高倉清雄氏撮影

巾広くもちたい勉強の場

地区コミッショナー 牧 野 績

本年4月の総会において、地区コミッショナーと云う重責を引き受けることとなり、いまさらながら責任の重大さと日頃の勉強不足が身につまされております。

年と共に浜松地区も団数が増し、古い団は完全団を目ざし、ほとんどの団がこれに近づきつつあります。現在では県下最右翼の地区となったのも先輩諸氏の指導と20年余の歴史が、今日の浜松地区にいたらしめたものであります。

あるリーダーから、最近は少しも研修や勉強会をやらないね、と云われたことがある。考えて見れば6～7団しかない時には何かにつけリーダーが集り話し合ったものである。地区内の団数もふえ昭和47年度から小地区制がとり入れられてからは、全リーダーが一同に集まる機会はたしかに少なくなった。だから研修会をやらないのではない。

今年6月ボーイスカウトのリーダーを対象に研修会を第一幼稚園で行なったところ、リーダーのほんの一部のものだけしか集まらず、実は調子ぬけした次第である。

手旗や、結索や、モールスの他精神面の研修も必要だと思う。幸い地区内には経験豊かなリーダーが沢山おります。時にふれこの人達と膝をまじえ話し合う事も一つの勉強でしょう。また一つには読書であります。私も最近昔の本を引きずり出して読んでおりますが、特に20年前のスカウト誌「スカウティング」など、なつかしく勉強会の資料にと心がけております。

故内田六郎先生（前協議会長）の寄附により「待鶴文庫」と命名し、地区内のリーダーの為に参考図書を整備しております。是非ともこれらを活用され勉強の場を広くもち、お互に研鑽を重ね、この道のためにつくしたいものである。

栄 弥

第24回二科展写真部門に最高で 二科賞に「空の熱魂」がみごと入賞

浜松第7団SS隊長 高倉清雄 氏

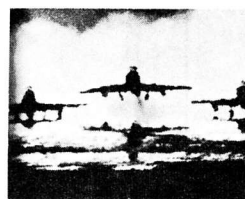
この度、高倉さんは日本美術会の最高位にある二科展において、題名「空の熱魂」(三点組写真)で写真部門最高栄誉である「二科賞」を受賞しました。浜松地区一同心よりその栄誉をたたえ弥栄を申し上げます。

この作品は高倉さんの11年来の熱のこもった撮影の集大成と云いがっておりますが、スカウト関係写真においても非常に大きな貢献をされております。

第4回日本J.(日本原)には隊長として、第5回日本J.(朝霧)、第6回日本J.(千才原)、第13回世界J.(朝霧)、第14回世界J.(ノルウエー)には日本連盟広報委員、記録写真班として参加し、ジャンボリーの後に日本連盟より発行される記念写真アルバムの大半を高倉さんが撮影したものであると聞いております。又第13回世界J.の記念切手2種類も高倉さんの写真より作られたものです。昨年のノルウエーの世界J.には13回世界J.のアルバムをノルウエー各界の方々に差上げ大変好評を博したとの事ですが、ノルウエーでも約7,000枚余の写真を撮影したが、朝霧の世界J.のような見せ場が少く、まとまりがなく撮影には殊の外苦労を重ねたようですが、写真に打込む高倉さんの気概は並大抵のものではありません。

今後ともスバラシイ写真を取り続けて頂きたいものであります。

(SY記)



「空の熱魂」入選作品御作

森と溪流に囲まれて

浜松西部小地区コミショナー 永田 遙 児

昭和51年8月13日から15日の2泊3日、好天に恵まれ、西部ブロックキャンボリーは、多大の成果をおさめ無事終了した。

和地山の集合地点に、6ヶ隊121名が集結し、点検終了後見送りの御父兄の激励のことばを受け、バスとリーダー団委員の方々の車に分乗し、川宇連野営場に向かって出発する。

開所式後、各隊によって設営に移り、豊かな緑と汚れを知らぬ川の流れに囲まれたこの野営地に2泊3日、生活を楽しむことになった。自分達の住まいを造ることはほんとうに楽しい。別荘をつくる気持だ。

夜間ゲーム19時開始、触覚、光、音、臭を判別し個人の得点を集計した成績による団対抗、12団が最高得点になる。

2日目。自然のうまい空気を呼吸しながら朝の体操。スカウトにとって、ひとつひとつの植分がめずらしく、朝つゆにぬれて、山ユリの美しい花が咲いている。

午前中、設営の充実と工作物の作成。

午後、技能コーナへのちょう戦。新制度による級別特修章、技能章にもとづいて9コーナを設置し、スカウトは班単位でそれぞれにちょう戦し、手帳にサインをもらった。

3日目午前中、自由コーナへちょう戦。音楽、ハム、風せん、スケッチ、薬草、サイト見学等、明るい声にはずんで楽しそうであった。

キャンボリーも今日で終り、全員協力して野営の撤収にかかる。この3日間の活動を通じて、スカウト達は、みんなで協力し助け合っているという心のつながりを持つことができたと思う。

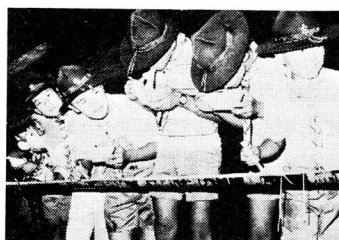
「来たときよりも美しく」を合言葉に、撤収を終わり、15時閉所式。全ての人に、全ての物に感謝し、帰途につく。

陰に陽にその奉仕活動に献身された関係者の御尽力に対して

感謝し、心からお礼を申し上げます。



ハムの勉強



流しソーメン



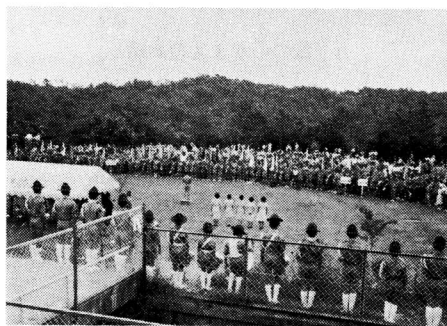
歌のけいこ

地区大会盛大に森林公園で開催

地区コミ 牧野 績

9月26日、浜北市県立森林公園にて昭和51年度浜松地区ボーイスカウト、ガールスカウト大会が開催された。

緑多い松林に囲まれた、つどいの広場に地区内から参加したスカウト及び父兄、リーダー約2,000人が会場狭しとすめ、定刻をやや遅れ開会式が挙行された。柴田事務長の司会により市川大会副会長(地区副委員長)の開会の辞“この雄大な自然の中で日頃の活動ぶりを発揮されたい”と力強く激励され、浜北第1団ボーイスカウト隊により国旗が掲揚され、君が代斉唱の後内田時世大会会長(浜松地区委員長)の挨拶(別記)があり、日頃地区に援助をして下さる団体及び個人へ感謝状の贈呈。



浜松地区大会……於森林公園

引続き浜松20団カブスカウト斉藤宣宏君の善行表彰、地区表彰が行なわれ、この大会に出席の浜松市社会教育課長鈴木真一氏の祝辞をいただき、来賓の方々の紹介、祝電の披露がされた。次いで本年アメリカ建国200年記念日米スカウト交換に派遣された浜松第1団鈴木君他2名、本県計画のシニアスカウトヒルモント派遣団員、浜松第15団原口氏他10名のスカウト、国際スタッフに派遣された浜松第6団寺田君等をそれぞれ牧野地区コミが紹介し、帰国の報告を受けた。浜北第1団ボーイスカウト富田君、静岡第48団ガールスカウト中野さんの二人により力強く宣言が行われ浜松第12団ボーイスカウト隊のファンファーレの演奏が空高くとどろき、大会ムードを一層盛り上げた。倉見大会副会長(GSリーダー会長)の閉会のことばの後、竹村実行委員長(地区野営行事委員長)の諸注意が伝達され、カブ、ボーイ、シニア、ガールとそれぞれの行事に移った。

今回の緑多い森林に囲まれ自然にしたしむ行事がとり入れられ、カブ、ガールスカウトは、スポーツ広場において手芸を中心としたむしかご作り、皮細工、ブンブンゴマ、竹とんぼ等スキオラマ的に展開された。ボーイスカウトは、オリエンテーリングに挑戦80組程のチームにより、ポイント時間が測定され10チームが入賞した。シニアスカウトは会場南側の池においてカヌー競技が実施され、一日有意義にすごした。

15時よりつどいの広場において閉会式が挙行され、オリエンテーリングの優秀班の表彰、ガールスカウト優秀団の表彰の後大会会長から参加授が地区コミッショナーに渡され、地区コミから各参加隊にそれぞれ手渡された。大会会長のことば、実行委員長講評に続いて全員で「連盟歌」を合唱、国旗降納の後、宮沢大会副会長(地区副委員長)の音頭で弥栄三唱、杉山大会副会長(地区副委員長)の閉会のことばをいただき大会が無事終了、明日からまたがんばろうと誓い合い成功りのうちに昭和51年度の大会の幕がとぎされた。

本大会実施の影には、地区野営行事委員の方々を初め、各団リーダー諸氏の多大の協力により例年に増して大会が行なわれたことを感謝いたします。

浜松地区DAYキャンプ挨拶

地区委員長 内田時世

ご来賓の皆様には常日頃私共ボーイスカウト活動に深いご理解とご協力をいただいておりますことを、心より御礼申し上げます。本日はご多用のところ、遠路わざわざ当会場にお越し下さいまして誠に有難うございました。

関係役員、リーダーの皆さん、特に浜北ブロックの皆様、スカウトのために、いつもながら数々のご奉仕をいただきまして有難うございました。

スカウトの諸君、浜松地区の元気な皆さんが年に一度つどい、楽しい一日を過ごすDAYキャンプの日が来ました。私達の集いは全てキャンピングですから、その事を忘れないで行動してください。皆さんのお陰で県内第一位2,353名のスカウトを持つ地区となりました。

本年は県連主催の第一回米国ヒルモント派遣、米国建国200年祭招待派遣にS.S.を送りました。年毎に国際交流が盛んになってまいります事は誠によろこばしい事です。第7回日本ジャンボリーも昭和53年8月御殿場にて挙行される事が決定しました。

「教育の原点は奉仕である。奉仕とは新しい価値の創造であり、新しい価値の創造のほかに奉仕はない」と、スカウト教育の原点も奉仕にあるとおもいます。自らの力で、自らの手で、価値あるものをつくり出すことがスカウターとしての大きな使命だともおもいます。然し、どんなに自らの力で、自らの手で、価値あるものを作り出し、奉仕をいたしましても、それが道理にかなっていないければ、又ルールを守らず、組織の運営を無視して実行されているならば価値ある奉仕とはいえないとおもいます。

「物の道理を知らぬ者はおろか者だが、道理を知っていて実行しない者は、もっと おろか者だ」とカーネギーがいております。私もそのようなおろか者になりたくないとおもっておりますし、切角の奉仕も価値ある奉仕となるように、皆さんも心掛けていただきたいと思います。



善行表彰を受ける斉藤君

スカウトの皆さん、un known Scout(名の知れぬスカウト)のお話を聞いた事があるとおもいます。「日々の善行」を実行した少年スカウトの善意によって今日のボーイスカウト米国連盟が誕生した事実は皆さんがご存知の通りです。

今日のデーキャンプを一つの節、くぎりとして更に、自らの力と、自らの努力によって、道理をわきまえた、ルールを理解したスカウターとして、「日々の善行」を通じて、私達の仲間をふやしてほしいとおもいます。

今日一日を、楽しく、元気に、皆さんを待っている、沢山のコーナーに、コースにチャレンジして下さい。

昭和51年度 地区大会において感謝状、表彰、善行表彰の贈呈が行われました			
地区感謝状		地区表彰	
浜松ロータリークラブ	浜松第12団 団員	小倉 清	第二次
浜松東ロータリークラブ	浜松第16団	山本 島	尾野 繁
浜松南ロータリークラブ	浜松第18団 副委員長	中平 宇	尾野 繁
浜松北ロータリークラブ	浜松第19団	渥美 山	守正 三
浜松ライオンズクラブ	浜松第20団 団員	堀 鈴	杉山 正
浜北ライオンズクラブ	浜松第21団	堀 鈴	堀 鈴
浜松第7団育成会長	谷 口 久	堀 鈴	堀 鈴
浜松第2団育成会長	青 嶋 兼	堀 鈴	堀 鈴
浜北第4団育成会長	高 倉 要	堀 鈴	堀 鈴
善行表彰		地区表彰	
浜松第20団カブスカウト	斉 藤 宣 宏	浜北第2団	"
地区表彰	"	浜北第4団	"
浜松第4団 団員	山 吉 寅 一	引佐第2団	"
"	"	"	"
"	"	"	"
"	"	"	"
浜松第7団 団委員長	松 井 義 男	"	"
副団委員長	光 重 千 四	"	"
"	森 重 千 四	"	"
浜松第11団 団員	依 田 留 也	"	"
浜松第12団	藤 川 鉄 次	細江第1団 CS隊長	杉 山 正 植

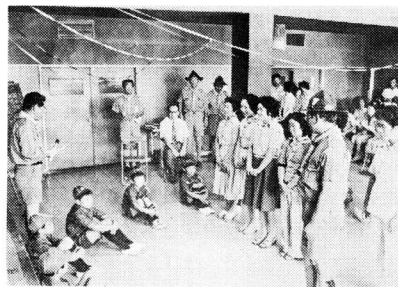
浜松11団カブ隊発隊

浜松第11団 鈴木俊輔

7月24日、灼熱の中にもかかわらず、当団のカブ隊発隊式には県連、地区役員、各団委員の方々はじめ友隊スカウト2百余名のご参列を戴きまして、盛大な発隊式を行うことが出来たことを、この紙面をおかり致しまして厚くお礼申し上げます。

ご承知の通り、当団は遠州鉄道線が従業員子弟の育英のためにつくっている団でございまして、東は袋井、西は湖西、北は天竜と広い地域にて活動しています。このような広い地域でカブスカウトの子供達を集めて、はたして皆様の隊のような活動ができるかしらと大変危ぶまれました。しかしこの発隊式で「ちかい」をたてたカブスカウト18名は、現在立派なスカウトとなって活動しています。集会のつど朝早く家を出て遠鉄健保センターに集合して、歌、ゲーム等を楽しんでいます。今では少々無理をして発隊させてよかったなと喜んでいます。これから色々な事が発生して悩むと思いますが、7月24日のあの盛大な発隊式を思い出し、スカウトの道を励んで行きたいと思いま

す。今後とも皆様方々のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



カブ隊の心がまえのお話し

県連派遣第1回米国ヒルモント 遠征見学選行のこぼ

地区委員長 内田時世

選考された派遣シニヤの諸君おめでとう。諸君に3の事をお願いして送行の餞けとしたい。

第一にS.S.のモットーであるLook wideという言葉を此の際特に真剣に考えてほしい。即ち外国に於ての自分自身を通じて、外国に於てのスカウトとしての自分自身を通じて広く見、広く体験をして来てほしいとおもいます。

第二に連盟歌の中にある歌の心を、あらためて考えてほしい。即ち名誉の重いこと、準備のかたいこと。責任ある行動をとってほしいとおもいます。

第三に感謝を忘れないでほしい。即ち今回の派遣に資格が有りながら参加出来なかった君達の仲間が沢山いるということ忘れないでほしいとおもいます。又、此回の派遣には君達のご両親、隊長、団の皆さんのご協力があったから可能になったということです。

元気に、健康第一にして記念すべき此の海外派遣がすばらしいものでありますように。今回の体験が将来のスカウト活動のエキストとなり益々活躍される事を祈っております。尚、原口リーダーにはご多用の中を責任ある立場でご参加をいただき、地区を代表して心から御礼を申し上げます。ご無事に全員が帰国されることをお祈りしてご挨拶いたします。

ヒルモント派遣隊に参加して

浜松第15団SS隊長 原口芳彦

ヒルモントスカウトランチに於けるスタンダードなコースは前後各1日の準備及び片付けを含めて12日間です。

従ってトレイルの期間は9泊10日となります。

そして正規のトレイルを終了した者にのみバッジが与えられます。

このバッジは進級とか技能とかのバッジではありません。

このバッジがスカウト達に授与されるのはすべてのトレイルを終えてトレーニングセンターに帰った夜です。

その夜はクロージングファイアが行なわれるのです。

その日に山から帰った隊のみを集めて実施されます。

幸運にも我々一行もそのファイアにオブザーバーとしてですが参加する事が出来ました。

ザット見渡して300人位の人数だったと思いますが、皆んな苦

しかった10日間のトレイルを終えた満足感で幸福その物の様子でした。

ファイヤーは皆さん写真等で御存じのヒルモント野営場の正面ゲート(木を組んだだけの簡単な物ですが、上には一杯トレーニングシューズが投げ掛けられていました)の遙か前方の小さい丘で行なわれました。

楽しい前座が済んで本番のバッジ授与のシーンは、それはそれは大変なものでした。

あらん限りの喜びの表現を身体一杯に出してしまいました。

然し私が感激したのは、その直後の出来事です。

全員に(勿論隊毎の代表者にですが)バッジが授与されると一転して場内は暗くなり或る一箇所にスポットが当てられました。そこには棒くいの上に小さな枝を打ちつけた簡単な机があって古びた本が乗っていました。

そして国際キャンプスタッフの一人であるレインジャーが立っていました。

瞬間全員がシーンと静まり返りストロボをたく者も居りません。そして彼は次の様なお話しをしたのです。

「このバッジは苦しい10日間のヒルモントトレイルを終えた者にのみ与えられる。

そしてこのバッジは全米スカウトの憧れの的である。

諸君はこのバッジを着用するに相応しいスカウトである。

従ってこのバッジを着用し得るスカウトである事を常に自覚し本トレイル終了後も日頃の行動を自重して頂きたい。

そしてその規範となるものはスカウトプロセスとスカウトローである。

我々は創始者ベーデンパウエルを片時も忘れてはならない。

1806年ブラウンシー島でB-Pに依ってともされたスカウティングの灯は全世界を明るく照らしている。

そして我々が幸福になる道は一つしかない。

その道は何か? それは君達もよく知っている通りである。

君たちの友

「ベーデン パウエル オブギルウェル」

恐らくこの夜の事は参加スカウト全員が終生忘れる事は無いであろう。

私達ヒルモント派遣隊に取っても。

もっともっと書きたい事は山程ありますが、亦次の機会にさせていただきます。

キャンプロール

浜松第15団SS隊 青嶋 豊

この夏、建国二百年日米スカウト交歓派遣に参加をし、アメリカに行ってきました。そして、アメリカのスカウトと一語にキャンプロールに入りました。

キャンプロールというのは、アメリカのスカウトが、技能章を取るために、キャンプをしながら、それぞれにアタックをするというものです。

われわれが、キャンプをした所は、イエローストーンのちかくで行われました。そこは、とても寒く、夏といっても、夜は冬の寒さでした。ぼくが持っていた寝袋は、夏用でしたので毎夜ふるえながら寝ていました。最後の夜は、Gパン、Tシャツ、ウエスタンシャツ、セーター、ジャンパーなどを着て、足にはくつ下の上からビニールをまき、寝袋に入り、寝袋カバーをし、その上からボンチョをかけて寝ていたというしだいでした。

キャンプロールに入って、一番たのしかったのは、一緒にキャンプをしているスカウトとみんなで、20マイルハイイクに行ったことです。このハイイクで、川をわたったり、ニジマスをつったり、たのしくすごしました。又、このハイイクの一番の目的は滝を見るというものでした。滝を見て、キャンプ地にもどったのは、9時ちょっとすぎにいました。とてもつかれました。



キャンプロールのアメリカスカウト

キャンプに入って、きがついたことは、スカウトは、自分の技能章を取るのを、重点的におこない、食事や朝かまどに火をつけるのは、隊長が中心となり、よく働いていました。ここが日本と一番ちがう点だと思います。又、ぼくのいた隊は、起床消燈の合図がなく、朝のセレモニーにまにあえばいいというようでした。もう一つ、一個隊が少人数で、キャンプ場に、何個隊もはいり、一緒にやっているということも日本とちがう所だと思います。

アメリカに行き、とてもたのしく、とても勉強になったと思います。

ヒルモントの思い出

浜松第7団SS隊 青木 晋

「アメリカ旅行で一番楽しかった所は。」と問われたら、

「ヒルモントでの6日間です。」

と答えるでしょう。なぜかというヒルモントでは普通の観光旅行とは違う、人との対話、心の振れ合いを得られたからです。

第1日目のハイキング、まだあまりなじめなかった二人のデインジャーと会話ができた。そしてぼくたちが夕食をとったビレッジでは二人のデインジャーと、トレーニングセンターで知り合ったスタッフの人とヒルモントヒムを日本語と米語で歌った。一人の面白いリーダーがいて、米語が少ししかわからないぼくたちにとてもわかりやすく、おもしろく劇をやってくれた。その後ぼくたちは金太郎の劇をやることになった。ひっこみじあんのぼくが心から楽しくくまの役をやれたことは、ぼく自身大変満足していました。

第3日目のハイキングでは、自然と動物と人間との振れ合い。

動物たちが人になついているのです。リスが平気で人に近寄り、食べものを差し出すとあの可愛らしいしぐさでとってたべります。その日の午後はフリーだったのでプレゼント交換をと思い公園に行きました。カブスカウトがいたのでプレゼント交換をして、そのあと隊の人とカブと楽しく遊びました。小さい子供を好きなばくにとっても楽しい一時でした。



アメリカスカウトとともに

第4日目の午前にはインディアンの住居跡を見学し、午後には牧場へ行き生まれて初めて馬にのりました。その夜カウボーイのキャンプファイアーを見ました。実に楽しいふんいきです。ほろ馬車が彼らのうしろにあり、そこでフォークソングを歌う彼ら、日本では見られない光景です。

ぼくは言葉の違う人達とうちとけあって行動が出来たということは自分自身満足しました。普通の海外旅行では経験することのできない心の振れ合いをまた多くの体験はスカウトでなければできないことだと思いました。

ヒルモントはスカウトとスカウトの場、自然と親しむ場、自然と戦う場、ぼくはアメリカのスカウトたちが、ヒルモントにあこがれる気持ちがわかるような気がする。

世界のスカウトは友達である。アメリカの多くのスカウトと友情をたかめることの出来た楽しい6日間であった。

派遣を終えて

浜松第12団SS隊 長谷川 剛

約半月の派遣。今、パンフレットなどを広げて見るといろいろと思い出される。初めての飛行機の中、これから起こることを連想して、どきどきしていたこと。1日目のヨセミテでの、アメリカ人との交歓。その夜、興奮して寝れなかったこと。サンフランシスコの坂とケーブルカー。バスのオーバーヒート。グランドキャニオン。そして、ヒルモント。

アメリカの大自然の美しさ、強さ。その大自然を開拓し、生きるアメリカの人々。すべてがぼくをほんろうさせ、すべてがぼくに驚嘆を与えた。こんな、大自然の中には、ぼくも生きたいと思った。

ヒルモントは確かにすばらしいキャンプ場であると思った。広く、設備がいいにはちがいないが、それよりも、環境がいい。真に自然にuke込んでいたといった感じだった。平原と山、湖に川、草原と森林、リス、シカ、野ネズミ、野牛。山に道を作り、水を引き、キャンプ場を作る。アメリカでなくてはできないことだと思った。インディアンの遺跡もあり、開拓の歴史の博物館もあってアメリカの古いものを見ることができた。その他、シートンの資料館やキャンプファイヤーを見たり、乗馬したり、とても楽しく6日間を過ごした。

父母にいろいろ学んで来いといわれて行って来たのだが、さっぱりだった。米語を話したには話したが、単語を並べるだけ。You are very good English.と言われた(冗談にちがいない)が、聞き取ることが、精いっぱいだった。16日間、けがや病気をしなかったのだけが、唯一のみやげだった。

今度は、国際スタッフとしてヒルモントへ、1人でアメリカへもう1度行こうと思った。

—— 浜松西部小地区団委員長紹介 ——

浜松第4団

内田 時世氏 昭和31年7月7日発団当初からの団委員長。大正9年6月10日生、(時の記念日)が名前の由来。敬父内田六郎前地区協議会長の志を受けつぎ昭和41年4月より地区委員長、市社会教育委員、県連理事、日連健康安全委員と家業より奉仕の方が多忙(医師)。

山葉 寅雄氏 14年前J.C時代にB.Sの活動実態を理解する目的でリーダー講習会参加、よき理解者であり、財政委員として活躍。長男浩伸君はC.Sより入隊して現在B.Sで頑張っています。尚氏は山葉楽器の直系で、その職域でも多忙です(会社役員)。

後藤 慧真(エシン)氏 高町半僧坊別院正福寺住職。昭和35年4月々員として奉仕をいただいております、第3回日本ジャンボリー(琵琶畔あいばの)にも見学参加、当日キャンプ地を台風が通過、一晩中テントの支柱をかかえて坐ったままでおられたのには、さすが本物の修業をした方と感服しました。第2次大戦には支那大陸にて従軍僧として、戦後は正福寺の復興に努力され、現在、保護司、民生児童委員と奉仕に専念、数々の表彰、感謝状を受けられている(僧侶)。



松井 山葉 鈴木
後藤 内田 吉田 の各氏

松井 義男氏 指導者養成委員、長男佳茂君はC.S第一回生、本年S.S第一回ヒルモント派遣隊員として海外派遣され、奥さんともDMとして活躍しました。温厚誠実な協力者(会社役員)

鈴木 忠平氏 息子さん入団して3年。D.Dとして隊集会、ハイク、大会等に行っている間に進歩委員におよびがかったとおっしゃる。学生時代はマラソンを愛好していたので体力に自信があるし、正義感が強く、根っからの子供好きの大ロマンチストで、次代を担うスカウト達と心のふれあいを大切にしたいし、スカウト精神の実践を第一と考えて、その指導育成に情熱を燃やしつつづけている。電々公社の局長さん(電々公社)

吉田 一氏 長男規行君C.S入隊したのを機会に、竜口野営行事委員生前中に指導洗脳されて、講習会も受講、B.S隊長のお手伝いまでする野営行事委員。山歩きが大好きで、何事も見てやろう、してみようと研究実行型、青少年育成に熱意を燃やしている。4団C.S隊長松井君の実兄です。

浜松第7団

光部 四郎氏 団委員長

光部建設社長、団委員2年、副団委員長3年、50年1月故大橋団委員長の後任として若さあふれるファイトを団に注入する。「スカウト活動が大好きですが仕事多忙で思う様に参加できない」と嘆いている、バイタリテイに富み、リーダーの良き相談役でもある。…42才

中村 公一氏 副団委員長

航空自衛隊勤務、野営行事委員4年、その間団行事のある所、かならず此の人ありと信頼される。頼まれた事は確実に実行さ

れ静かだが誠実家として51年度より副団委員長に就任。

奥様はDMよりガールスカウト静岡第51団リーダーとして活躍中…47才

森重千太郎氏 副団委員長

会社役員、団委員8年、副団委員長3年、7団最古参委員で、静かな人柄で表に出ない人。現在は会社の重鎮で此の人が居なければと会社が放さないで「スカウト活動が手伝えないのがつらい」と言う…55才

青木 左治氏 財政委員

病院職員、財政委員6年。静かな温厚な人柄だが貧困団の財政をやりくりひとすじ6年間。

今では団になければならない人、各隊隊長のおねだりをイヤと言った事が無い、やりくり上手…50才

和田 卓人氏 健康安全委員

和田病院長、委員3年、自営病院のため仕事が多忙ですが、野営、舎営には携行薬品を整えてくれたり、数時間の暇を見て夜中でも駆けつけてくれる…41才

板倉 昭二氏 指導者養成委員

会社員、C.S副長2年、B.S副長2年、S.S隊長1年とリーダー5年、本年は会社の仕事のため団委員となる。B.S実習所、C.S実習所を履修している…47才

長谷 勝信氏 野営行事委員

市役所職員、B.S副長、隊長としてリーダー2年。本年は無線クラブ役員のため団委員となる。同氏の家はスカウト無線のオフイスである…40才

鈴木 孝男氏 進歩委員

鈴木電工社長、本年度団委員となるもファイトマンで只今スカウティングの猛勉強中である…38才

谷口 久雄氏 育成会長

谷口スタジオ社長、育成会長5年、仕事の関係で西に東に飛び廻っている人。団運営資金の獲得のため奔走し、各隊の備品を各隊長から寄付せぬに常にあつて居る。でもそれが嬉しそうでスカウトの為ならばと取られればなしの人。野営、舎営にはお土産持参でかならず訪問してくれる…49才

勝又 教司氏 育成会副会長

建設会社社長、副会長3年、SS、BS父兄連絡担任として会長を助けている…40才



浜松第7団 団委員

伊藤 綾子氏 育成会副会長

主婦、本年度よりC.S父兄の連絡担任として会長を助けている

坪井 愛三氏 組織拡張委員

公務員、リーダー5年、団委員5年。

頭は白いが気は若い、スカウト達と行動する事でストレス解消と若さが返って来ると信じ、スカウト達の中に入って行く事を楽しみにして居る…57才

浜松第11団

斉藤 繁雄氏 団委員長

浜松第11団は遠州鉄道㈱が結成している企業ボーイスカウトであります。団委員長は人事部長が受持つこととなっており、斉藤団委員長は第4代目となります。今年第4回オーストラリア・シニア・アドベンチャーキャンプに参加し、立派に任務を果たして来た斉藤欽司君の父親です。以前労働組合の委員長もやられたことがあるので、統率力は大変立派です。人望厚く、物静かであって気迫があり、宿題のカブ隊発隊を無事実現させました。多忙にもかかわらず、団キャンプ、隊集会等にも顔を出し、子供達にも親しまれる団委員長です。

森島 久男氏 副団委員長

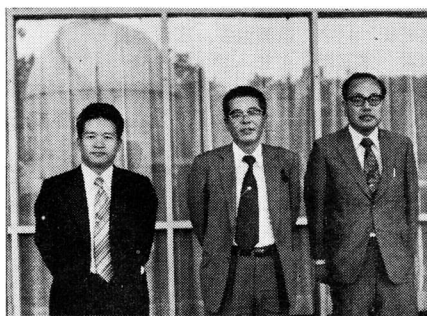
今年度より副団委員長を受持っています人事部次長兼労務課長です。労働組合との交渉が大変です。人情味が厚く、色々な角度から物事を見、判断できる大変な勉強家です。息子さんを必ずボーイスカウトにすると云ってくださる良き理解者です。

鈴木 良雄氏 副団委員長

当団事務局を預かる厚生課の課長です。知識の宝庫で、何んでもこなします。

西尾 和雄氏 野営行事委員

鉄道技術を一手に引き受けている工務課長です。



左より 森島副団委員長 斉藤団委員長 鈴木副団委員長

依田 留也氏 組織拡張委員

発団当時1隊隊長、現在館山寺営業所の所長をしています。今回の地区大会に地区表彰を受けた立派なスカウターです。現在2児がカブスカウトに入隊しています。

松山 直次氏 指導者養成委員

発団当時2隊隊長、現在遠鉄トラベルの部長さんです。物事をてきぱきと処理し、指導者の鏡と言われます。

浜松第12団

中嶋 圭介氏 団委員長

創立以来の団委員長、丸西機械の代表取締役、BSの事務局を奥さんが担当している。

金森 武夫氏 副団委員長

団の財政を担当、トーキン工業の社長さん、12団の健全財政は金森副団委員長の手腕によること多し。

青木 実氏 野営行事委員

千代田工芸の重役さん。なかなかの活動家、創立以来の団委員

小倉 清隆氏 指導者養成委員

浜松市消防団の副団長、BS活動についても非常に熱心。

木村 敏夫氏 健康安全委員

木村医院の院長先生、団の健康管理について色々面倒をみて下さる。

薩川 鉄次氏 野営行事委員

サツ川製作所の社長さん、団委員会では常にユニークな発言をしてくれる人。



浜松第12団 団委員

上田 治正氏 組織拡張委員長

自衛官、常に温厚篤実な人。

山本 勲二氏 財政委員

国鉄マン、団の会計担当、真面目な人。

坂田 宏氏 野営行事委員

大学生時代山岳部、キャンプについてはベテラン、東海工芸専務。

大橋 威氏 野営行事委員

本田技研勤務、団の写真係を受けハリキル。

大塚 隆一氏 野営行事委員

中村建設勤務、奥様はガールスカウトのリーダーで御夫婦共献身的です。

宿屋 忠夫氏 野営行事委員

本田技研勤務、栄養士、調理士、板前の腕を持つ名コックさん、女性顔まけです。

浜松第19団

鈴木 真一氏 育成会長

発団以来団委員として団の運営にあたられて来たが、昭和50年度より育成会長となる。

浜松市教育委員会社会指導課長としての豊富な経験をもった人が団の中心となられていることは19団にとって大へんありがたいことである。

鈴木 謙氏 団委員長

19団も現在ではスカウト数がほぼ100名となったが、このように充実してきたのは、ひとえに鈴木団委員長の努力によるものである。(浜松市役所勤務)

野中 豊治氏 副団委員長

昭和47年より副団委員長になり、現在に至っている。

「スカウト浜松」西部小地区の編集を担当(小学校教員)

渥美 俊策氏 副団委員長

長男のCS時代「自分の健康に役立つ」と野営行事を担当以来団委員6年、本年度より副団委員長として活躍されることとなった。(会社員)

栗倉 敏氏 財政委員

財政委員3年、当団の苦しい財政をどうにか破産させずに来ているのも栗倉氏の力である。

お金がほしくなるとみんなでせびりに行く、そんなとき大空にむかってひと声「金のなる木はないかなあー」(銀行員)

松島 圭祐氏 B.S会計担当

昨年度はC.Sの会計担当であったが本年度は長男がB.SとなったためB.Sの会計担当としてがんばっている。(会社員)

関本 光広氏 B.S会計担当

松島氏とともになかなか集まらない団費の集金に心をなやましていく。(会社員)

松本 長三氏 C.S会計担当

ごぞんじ旭スポーツの松本さんである。団委員として当団の運営にがんばっている。

木俣 良夫氏 C.S 会計担当
51年度C.S担当の団委員となりがんばっている。(木俣モーターズ)

山口 洸氏 指導者養成委員
団結成以来C.S隊長、S.S隊長をされたが、仕事の関係から本年度より団委員として活躍されることになった。(富塚幼稚園)



関松幸 早木松
本島田川 齋俣本
林石野 澤藤
原中 美田

藤田 恒氏 野営行事委員
昭和48年より野営行事委員として団の野営、小地区の野営には忙しい仕事をおいて資材の運搬、設営に尽力されている。なくてはならぬ人である。(建築業)

徳田 隆義氏 野営行事委員
本年より野営行事委員になられた。今後すばらしい活躍をされることと期待している。(自営)

石原保太郎氏 野営行事委員
若い頃は南アルプス、白根三山等を走した経験の持ち主である。これからこうした経験が野営行事に生かされ、すばらしい成果が生まれることと思う。(会社員)

舟越 忠氏 健康安全委員
舟越外科の院長としての力を当団のスカウトの保健安全の面に生かしていただく。本年度で2年目である。

早川 佳男氏 組織拡張委員
昨年度はB.Sの会計担当、本年度は組織拡張委員となりB.S活動に大いにがんばっている。(会社員)

幸田 祐三氏 組織拡張委員(C.S担当)
49年長男がC.S入隊し、昨年はD.D、本年度はC.S担当の組織拡張委員となる。若くは切り替えており、今後すばらしい活躍をしてくれることと思う。(自営)

林 総氏 進歩委員
本年度はじめて団委員となる。健全な青少年の育成と社会奉仕のためがんばりたいとはり切っている。(自衛官)

浜松第24団

(①勤務先 ②趣味・特技 ③酒量を共通テーマにしました)

袴田 五平氏 46才 育成会長
袴田コンツェルンの総師として、繊維産業から、レジャー産業に至る迄、手広く活躍され、一方宗教、社会事業にも深い関心を示され、又B.S活動にも力を入れて下さり、奥様始め七人のお子様達も団員として、その力を発揮なされている貴重なB.S一家であります。

①袴田株式会社 ②ゴルフ ③盃一杯以下

白尾 老男氏 49才 育成会副会長、副団委員長、野営行事委員。永年地域自治会及びPTA活動にたずさわる傍、B.S活動にも深く関心を持たれる、良き理解者です。①日東自動車㈱ ②ゴルフ、盆栽 ③180cc(清酒)

間片 浩氏 41才 団委員長
遠州の自動車部品メーカー社長として、又、奥様はDMとして多忙を極める中でB.S活動に特に力を入れる良き指導者です。

①マガタ富士化成㈱ ②骨董品蒐集 ③酒3本、ビール一本
小粥 康規氏 37才 野営行事委員
①織布業 ②旅行、写真、絵画 ③2、3合カナ? 年間を通じてアルコールは欠かした事は有りません。

竹内 文夫氏 43才 野営行事委員

①建築業 ②魚釣り ③ビール一本

宮分 実氏 39才 野営行事委員

①鉄工業(宮分プレス工業所) ②魚釣り ③アルコールは、いたって弱い

岡田 慎二氏 48才 野営行事委員

①東京セロファン浜松工場 ②囲碁、将棋、麻雀 ③2合

鈴木 要三氏 39才 財政委員

①団体組員 ②魚釣り ③清酒一合

市川 茂明氏 41才 指導者養成委員

①静岡県西遠女子学園 ②旅行、庭いじり ③はかりながら飲む馬鹿はいない

辻 隼人氏 41才 指導者養成委員

①辻建築(自営) ②読書 ③ビール一本

野末 恭史氏 31才 指導者養成委員

①カワモリ支店 ②大物魚釣り ③ビール大一本

細井 信雄氏 38才 組織拡張委員

①柳松菱 ②スポーツ ③相手が飲む量ぐらい

鈴木 貞夫氏 40才 組織拡張委員

①柳明石石油 ②旅行、食べあるき、軽飛行機操縦 ③薬になる程度

島津 嘉光氏 41才 組織拡張、広報委員

①精肉店自営 ②写真一すじ ③2合5勺

白尾 喜一氏 41才 組織拡張、広報委員

①ムトウ㈱ ②ヘボ基(自称5級) ③チョコ一杯で三合並み酔える(ビールコップ一杯)



浜松第24団 団委員

久島 豊氏 44才 健康安全委員

①医師 ②食べ歩き、ドライブ ③ウイスキー、ボトル1/3程度、週1~2回、毎日アルコールは取らない。

岡田 好司氏 40才 健康安全委員

①岡田薬局 ②野球、魚釣り ③おつき合いで水割5杯、晩酌はなし

鈴木 絢子氏 37才 健康安全委員

①病院 ②日本舞踊 ③ビール一本

戸塚 拓男氏 45才 進歩委員

①自営 ②夜の巷散策、昼寝 ③0.5合~8合、その時の調子次第

大城 国雄氏 39才 進歩委員

①自営業 ②野球観賞 ③飲まない

稲木 祐一氏 47才 育成会監査

①静岡大学 ②スポーツ ③180ml

団運営について

浜松第12団団委員長 中嶋 圭介

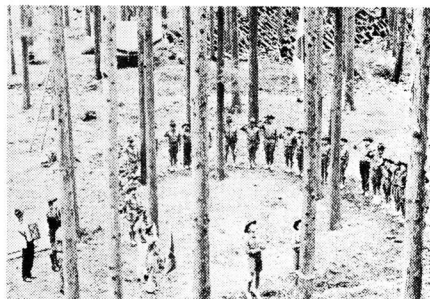
私共12団は本年11月で満13周年を迎える事になりました。私の体験から団運営について少し述べさせていただきます。

昭和38年12団発足するについて私が団委員長と云う事で宮沢先生に進められ、当時ボーイスカウトの事は私にはまるきり素人であり、いささか迷惑を感じました。そこで宮沢先生始め三輪さんからボーイスカウトの事について色々とお聞きしまして、先ず感じました事は、第1番目に運営面と教育面が混同されている事、2番目には財政面が他人依存。すなわち寄附などをあてにしていた事です。そこでこれから2点について早急にとりかか事に致しました。運営と教育については先ず運営の責任を負う団委員に、それぞれの担当区分を決め責任を持って頂き、指導者に運営面についての心配を一切かけない。その代り指導者は教育に専念して頂く。こんな事は現在の各団の皆様には、あたりまえの事と思われるかも知れませんが、当時としては大変な事であったのです。そこで私は、これらの事を成功させるには先ず団委員及び指導者のコミュニケーションが必要と考え、毎月団会議を実行する事に致しました。月1回のこの会議は13年間休む事なく開いております。お蔭で団運営は現在までつがなく過してまいりました。次に財政面については、他人依存でなく受益者負担の方針にのっとり、自分達の子供の教育については自分達で責任をもとうのスローガンのもとに発足致しました。発団当時は備品として一つもなく、これらの調達については特別会計によりご父兄の皆様に協力頂き、訓練に支障きたさない様にまいりました。お蔭で今日では野営用具は勿論のこと、トランペットや鼓隊の楽器類までも揃ってまいりました。尚収支については13年間赤字になる事なく健全財政をもっております。いささか我団引水になった様に思われますが、少しでも皆様のお役にたてればとお願いする次第です。

半年の歩み

浜松第24団団委員長 間 片 浩

今年3月に発団して6ヶ月、まだゆげの出るような新団でございます。諸先輩に御指導いただきながらの、よちよち歩きですが、どうぞよろしくお願い致します。何と云っても、今は基礎の段階なので、活動自体もかたく、ぎこちなさも感じられるのですが、そこにはフレッシュさがみなぎっています。普段着では、やんちゃな子ども等も、ユニホームを着ると、シャンとしてくれ『デン、デン、デン』の合図に飛んで行き『いつも元気』と大きな声でやる姿は見えても、ほほえましきで一杯です。ボーイの方も、沢山のゲームや歌をおぼえ、リーダーのハッパを吹きとばさん勢でキャンプを楽しんでくれます。



朝礼 国旗掲揚

野営の準備、カブの隊集会、リーダー、デンマザー、デングット、そして団委員の皆さんも、それぞれの任においてベストをつくして頂き、時には午前様まで語り合い、実行にうつし、その成果を見て喜び合うその姿に、BS運動の我々なりの充実感がただよっている様に思えます。

時がたち我々の手で育てた、この子ども等が、やがては社会人となり、立派に成人してくれる事を夢見ながら今日も定例24日の団委員会へといそぐ私達です。

夏のキャンプに参加して

浜松第12団4組DM 小野 弘子

変わりやすい天候の中で行われた2泊3日の竜山村青少年旅行村でのキャンプに4組のデンマとして参加した。環境よし、設備よし、「大昔の大和民族」をテーマに組まれたプログラムも盛沢山だった。

夏休みの疲れも出る8月末なのにスカウト達は、隊長のフエーって機敏に行動し、活動した。

組集会での古代の住居造り、お面、そして、はにわ作り、最後に隊集会での即興野外劇、どの組もまとまりよく、良い出来栄だった。

スカウト達は、のりにのって瞳を輝かせ真剣だった。

夜のキャンプファイヤーは圧巻だった。又、キャンプ場での大きな楽しみである食事。これが素晴しかった。炊事係として参加して下さったお母様方の大活躍で、野生味あふれる料理の数々。鶏の丸焼、そしてバーベキュー。少ない経費で無駄なく、栄養満点の食事だった。

帰る日の昼食は、くまの子たちの手による「すいとん料理」組毎に材料は同じでも、カレー味あり、塩味あり、それぞれ腕を競った。

しか、うさぎの子たちは、隊長、副長、そしてお母様方へ感謝の心を込めて昼食の招待状を書いた。

実に充実した心に残るキャンプだった。天候までが、12団を祝福するかのように隊長の意のままだった。

隊長はじめ、リーダーの方々、お母様方、そして黙々と力仕事をして下さったお父様方への感謝の心を忘れてはならない。

観音山へ行った事

浜松第24団カブ隊 金原 茂

8月22日、二はく三日の舎営で観音山へ行きました。行きは重い荷物を持って山の坂道を歩いて行ったので、かたがいたくて後へたおれそうでした。

前のときは、住吉町へ行ったので家がならんでいただけ、今度はまわりが山だらけで山の中に来たんだなあと思いました。少年しぜんの家についた時、ぼくの思っていた家よりも、楽しくてにぎやか、おもしろそうな所だと思いました。

夜のキャンプファイヤーは、とても楽しく、朝も山の中で気持ちがよく、それにテレビがないし、ふとんも自分でしたり、たんだり、とてもよい勉強になったと思いました。



観音山にて朝の体操

最初のオリエンテーリングのとき、山のちょう上までのぼってしまったり、ふもとまで下りたり、まいごにならなくてよかったと思った。二回目は、紙をさがした。木の上の方に一枚紙を見つけたときうれしかった。

オリエンテーリングが終ると川へ行ってつめた水に入った。いい気持ちでした。それから、少年しぜんの家へもどり、すいかを食べ、お昼ごはんを食べた。

帰る時になって二はく三日なんて、早いものだと思いました。そして、ここはなんのためにあるのかわかりました。それは、人にたよらない、テレビを見なくても、しぜんと頭をかって遊びや勉強ができるものという事です。

舎営について

浜松第24団カブ隊 小笠原 工

八月二十二日、カブスカウトで観音山へ二泊三日の舎営に行った。

ぼくは、バスによってめまいがし、入所式のときもすずしい所でやすんでいた。

ハイキングに行って、石を投げ風せんをわるとき、むかでにかまれそうになったのでびっくりした。風せんわりは、ソフトボールのようにうまくいかなかった。お昼には、団委員の人達が沢で流しそめんをやってくれ、沢に入って竹づつを通してくるそめんをすくってたべるのは、初めてで胸がドキドキした。ぼくたちは、ハイキングで汗びっしょりなのでつめたくてとてもおいしかった。

夜のキャンプファイヤーは、はじめてできょうみしんしん、ゴーと火がついたときすごかった。ソング、スタンツ、お母さんがたのみんよう、デンチーフのスタンツは、おもしろかった。家に帰ってからも思いだしてやるので、家じゅうの人が、みんなおぼえてしまった。

夜は、デンチーフといっしょにねてからが楽しかった。

オリエンテーリングをやった。ぼくたちの組は、二つしかさがせなかった。シルバーコンパスの方向に行くと道がなくなってしまった。

さいごの日、ウォークラリーをやった。ポイントCだけ、な

かなかみつからなくてこまった。

オリエンテーリングの時もウォークラリーの時もデンチーフが、トランシーバをもって山にいてくれたので心づよくよかった。

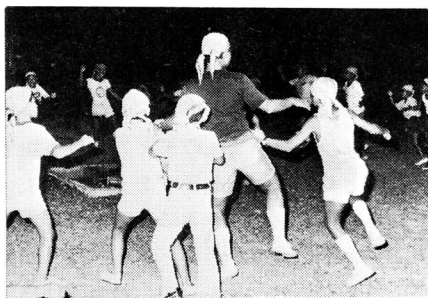
かん音山

浜松第24団カブ隊 小沢 健市

ぼくたちカブ隊は、8月22日から24日までかん音山へ舎営に行きました。

夕べのつどいのあと、ふろに入って夕食をすませ、営火場までならんでおりて行きました。やぶ下隊長とデンチーフのおにいさんたちが、木を井の字に組み1メートルぐらいつみ上げて、油をかけ火をつけた。すると、火はいちどにたくもえあがりました。火をかこんで、歌とスタンツをやりました。

ぼくの組のスタンツは、まっ黒けの土人です。歌は「クラリネットをこわしちゃった」です。みんなが、はく手してくれ、少しはずかしいようなうれいような気がしました。



キャンプファイヤーを囲んで

デンマザーたちは、ぼんおどりをやりました。ぼくたちもはいっておどりました。とてもたのしかったので、時間がおそくなりました。一れつにならんでくらい道をのぼって帰りました。もう少しやっていたかった。

西部ブロックキャンポリーの感想

浜松24団ボーイ隊 辻 徹太郎

キャンポリーだから、思いつき楽しもうと張切って家を出た。野営地までは、素晴らしい野営になるように願った。いざ着くと一人の欠席がどうも気になった。

設営は、落ち着いた感じで進められ、夕食もあせらずに出来た。二日目、立派な門とサイトの区分けを作った。そしてその夕食は、鶏の料理だった。

まず鶏を取りに行く、とにかくその時から武者ぶるいのしっばなしだった。鶏を一羽つかんだ時など異様な感じがした。暖かかったし、以外にやせていたからだ。次に足を荒縄で結ぶ、長い爪でうろこでおおわれたような足だった。そして鶏は、それきりじっと諦めたように座りこんだ。ぼくは、本当にただ人間に食べられるために生きて来たんだなとつくづく思った。みんなは、「さあ、首を切れ。」といった表情で集まって来た。しかしぼく達班長にとってはいい迷惑だ。みんなを追い払った。用意はすっかり出来た。一羽目の首に包丁を、そして逆さにして血がしたたり落ち、けいれんが始まって動かなくなってしまった。ぼくは、最後の四羽目だった。羽毛をむしる。面白いほどよくむしれた。今は、もう気味が悪いのだ、見たくないのだ。はきそうだのと言ってはいられない。羽毛は、鶏の体温の下らないうちにむしらないと、後でとれなくなってしまうからだ。だからぼくは、もう武者ぶるいなどどこかへ飛んで行ってしまった。

その夜、とても静かに寝れた。

最後に、ぼくは少しだらけたように思う。飯たきも撤営も、もう少し素早く正確にやって欲しかった。

第1回野営訓練の感想

浜松第24団ボーイ隊 岡本 憲明

ぼくにとっては、初めての経験でした。緑が光る森の中で自分達の手で自分達の住みかを作り、めしを作り、夜にはキャンプファイヤーをやり、何もかもが初めての経験でした。

ぼく達の日常生活では、ガスコンロや照明、電気器具などはとても重要な役割を果たしています。それが無いと困ることになると思います。でも、ぼく達はコンロなしで飯をたけだし、その他の器具がなくても一夜を過ごしました。石でかまどを作り、テントをはって、食卓を作って、とても素晴らしいことだと思います。

この野営が成功したのは、リーダーの指示が良かったからだと思います。しかしそれにも増して、みんなの協力があったからだだと思います。みんな一人一人が団結したから、大きな事故もなく無事に終わったと思います。ぼくは、そんな時十五少年漂流記を思い浮かべました。十五人の少年がお互い助け合い励まし合って無人島で生活をするという話です。今度の野営は、その話と同じことだと思います。班の中で、隊全体で助け合い励まし合った。そこが今度の野営で得た一番の成果だと思います。

ぼくは、まだ駆出で未熟なところがあります。でも、これからもっともっと訓練して立派なボーイスカウトになるよう頑張ります。



朝のキャンプサイト

浜松第24団ボーイ隊 宮分 和浩

このキャンプを終えて思ったことは、野営工作の素晴らしさです。野営工作の種類を増やせば増やすほど、キャンプの内容は深まります。またサイトの中はとても住みよくなります。

ぼく達の班では、いろいろな物を作って見ました。まず、サイトをはっきりさせるために、サイトの回りにロープをはりました。入口や裏口を作ったり、木を利用してドアも作りました。次に、立かまどの下にロープをはりめぐらしてハンモックのような物を作りました。そこには、たき木を置くようにしました。そうすればたき木はバラバラにならないし、乾燥も出来るからです。また木の枝を利用してそこにローソクを立ててジャンデリア代りにしました。その他にも工具置き場や物干場を作って見ました。

ぼくは、このキャンボリーに出るのは初めてですが、二泊三日の間楽しく過ごしました。夜間ゲームでは苦労しましたが、キャンプファイヤーやアーチェリーなどはとても楽しく良かったです。

これからの野営には、いろいろ考えて野営工作の種類を増やして住み良い生活が出来るようにしたいと思います。

初めての野営訓練

浜松第24団ボーイ隊 多米 一隆

ボーイスカウトに入って、というよりも生まれて初めての野営でした。野営地は天竜市の大溪でした。

野営地に着いてまずテントをはりました。ぼく達の班にはベグが一本も無かったので、太い木の枝を捜して来て、木ベグを作って使いました。そして、半分ぐらいやった時に、余ったベグをもらって来て使いました。テントは一番遅くなってしまいました。始めからベグがあればもう少し早く出来たと思います。それから夕食の準備に入りました。それも手際良く行かず、ついにお米だけしか食べることが出来ませんでした。

営火のスタンツは、盗作のようなものだったので、もっと良く考えて良いものを作れば良かったと思う。その夜は、とても風が強く上のシートが半分めくれたりして、いまにもテント全体がどこかへ飛んで行ってしまいそうな感じがしました。

朝は、五時に起きて早速朝と昼めし作りを始めました。ぼく達の班は二番目に始めたのですが、だんだん遅くなり、また食べるのがビリになってしまった。残ったお米を全部たいたので、水が足りなくて何度もたきました。このように失敗ばかりでしたが、みそ汁だけはうまく出来ました。

こんなふうでしたが、とても楽しい野営でした。失敗だらけだったのですが、「失敗は成功のもと」とも言うので、次の野営からは同じ失敗を繰り返さないように、しっかりとやりたいと思います。



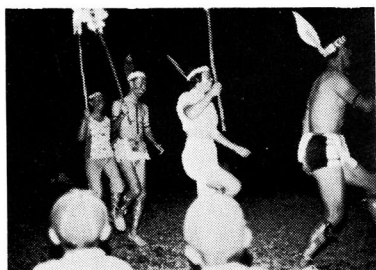
たのしい炊事

白倉キャンプの思いで

浜松第12団カブ隊 宿屋 好孝

今年の12団キャンプは、8月29日から31日までの3日間です。夏休み中楽しみにして宿題をさきにやってキャンプの日を待ちました。大昔の大和民族というテーマで白倉のキャンプ場に29日バスで行きスギ山にかこまれた山のおくに着き、開会式を行ない、けしきや空気のよい所でおべんとうを食べてから昼から鼓隊の練習を始めたが、いつもとちがって山の中での鼓隊はとっても音がよくひびき、みんなはりきって練習をしたら気持ちがスカッとして、これから3日間全力を尽してがんばろうと思った。それからバンガローに入り組集会でお面と、大昔の家、生活につかった道具をデンマザーやデンチーフのしどうをうけながら作り、すばらしいものが出来あがりました。夕食を食べから、キャンプファイヤーをやりましたが、キャンプファイヤーは、リーダー、お父さん方で作り、食事は、お母さん方で作って下さいました。キャンプファイヤーをやるときは、まっくらな中で一列にならんで行進してキャンプファイヤーのまわりをかこみました。シーンとしずまったその時、副長のインディアンが火の矢をサッとばなしてファイヤーに火がつけられま

した。そのしゅん間のすばらしいものに感動しました。その後隊長が、その昔、火の由来をお話して下さいました。組ごとに、歌やおどりをして楽しいひとときをすごし、ぐっすりねました。次ぎの朝起きて、近くの山を一周マラソンをして朝食をいただきましたが、それはまた特別においしかった。今日は、ピクニックで世界一周にでかけました。各国でいろいろなことをやりましたが、アメリカの砂金ひろい、これは、アメをひろったわけです。また、バリーでは、ファッションショーでぼくがモデルになり、みんなから洋服をつくってもらい、1位になったのはうれしかった。午後から第2組集会で前日作ったお面に色をぬって仕上げ、はにわを作っててんじした。ぼくのはにわがゆうしょうした。夕方、隊集会でぼくたちは大昔の人の生活の一部を再現してげきをやり、みんな一生けん命にやりました。3日目は、ゲームやパズルなどで、朝をすごし、昼食をいただいて、帰りの仕度をして閉会式をやり、白倉キャンプ場とお別れしなければなりません。ぼくは、この3日間でいろいろな事を教えられ、学ぶ事がたくさんありました。来年は、クマスカウトになるので、これをもとにして、しっかりとがんばろうと決心しました。



インディアンの営火

白倉山荘の思い出

浜松第12団カブ隊 村瀬浩二

この間、白倉山荘という所へ行きました。長い時間バスに乗ってようやくつきました。そこは、山に囲まれ、空気はいいし、水はすんでいて、気持ちよかったが、飲んではいけなかった。

8月のテーマは、「大昔の大和民族」でした。ここは、昔の人の生活をさい現するにはとてもいい場所だ。大昔の人は、今のようにぜいたくな生活をしていなかった。大昔は30才ぐらいしか生きられない。人が死んだ時、おはかにうめるが、一人ではさみしいだろうからねんどで「はにわ」を作り、これをいっしょにうずめてあげたようだ。ぼくたちは「はにわ」の人形を作った。

3日間のうちで、いちばんおもしろかったことは、キャンプファイヤーの時の隊長がやったげきだった。隊長が、火をさがしにいつつかけきったすがたは、とくにうまく、感じが出ていた。それと同じくらい楽しかったのは、ぼうし取り。1,3,5組対2,4,6組との試合は、なかなか勝負がつかなくて、くたびれた。

帰る時、どうしても、帰る気になれなかった。もう一回行ってみたいとおもう。

キャンポリーに参加して

浜松第12団ボーイ隊 小杉知義

8月13日から西部ブロックのキャンポリーに参加した。場所は川宇連、ここでの長期野営は3回目であった。

第1日は、設営である。我団は参加者の関係で2個隊を組み、それぞれ設営を行なった。この時、稲妻班はサイトの場所の関係で、他の班の2倍も働いた。

2日目は、山本君たちが合流し、作業もぐっと楽になった。サイトの方も、作業が進むにつれてりっぱになり、かなりの上でできたと思う。夜には、営火が行なわれた。非常に楽しかった。

3日目、天気の方もかろうじて雨はふらず、なんとか進んだ。前日の夕方に倒れた立ちかまども、なんとか直し、堀りかまども作ったので、困ることはなかった。撤収も、スムーズに終わった。

このように、非常に楽なキャンプだったと思う。雨もふらず大きな事故もなかった。これからこの様な野営にしたい。



たのしい水浴

キャンプに参加して

浜松第12団ボーイ隊 岡本康弘

8月13、14、15日に浜川で西部ブロックキャンポリーがあった。設営のとき、未開拓地を開拓したため、時間がかかったが、まともにテントがはれてよかった。

13日の夜、『聴覚、視覚、臭覚、触覚』のゲームをやった。しかし、何だったか、というのを覚えていなくてはいけなかったもので、あまりよくわからなかった。

14日は、特修章に挑戦したが、むずかしくなかなかできなかった。

15日は『自由コーナーに挑戦』だったが、ぼくらは、テントの中でポーカーをやっていた。ポーカーは楽しかったが、自由コーナーへ挑戦しなくてはいけないなあと思った。

2泊3日だったが、たのしいキャンプだった。

キャンプに参加して

浜松第12団カブ隊 坂田成司

8月29日、ぼくたち浜松12団は、秋葉ダムの近くにある「白くろ旅行村」にとう着した。これから2泊3日のキャンプが始まるのだ。

開会式は、20分位ですみ、すぐ昼食。それぞれ自分が持って来たべんとうを食べた。しばらくたって、自分の組のバンガローに入室し、荷物を置くと、すぐに組集会になった。5時には終わり、楽しい夕食の時間が始まる。食べ終わった時にはすでにまっ暗になり、キャンプファイヤーをやり始める事になった。

大きな輪になったころ、とつ然屋根の上にインディアンが現れて、何やらわめくと火の矢をまきのつんである所に飛ばして火をつけた。中から火花が飛び出し暗い夜空がもえた様に赤く見えた。屋根の上から「グワン、ガラン」と言う様なものすごい音がして、インディアンが現れた時には、ぼくは少しブルブルとふるえた。中にはびっくりして飛び上った子もいた様だ。

火が勢いよくもえると、いろいろな歌を歌ったり、ゲームをやったりしてすごした。「山口さんのツトムくん」「東村山町内おんど」などを歌っている組もあった。おとうさん方のげきもす晴らしかった。特に隊長のふんする若者の熱演に皆が大きな手を送った。

そうしている内に、キャンプファイヤーの火も次第に小さくなって、静かに夕べのつどいが終わった。やはりキャンプファイヤーは、キャンプの中で一番すばらしい時ではないかと思う。

カブのキャンプはこれで2回目。去年は毎日雨に降られたが今年は一番最後の夜に降っただけだった。来年は、カブ隊も最後である。雨の降らない上々の天気キャンプを迎えたいと思う。



おいしいおやつ

西部ブロックキャンポリーに参加して

浜松第12団BS隊 金沢恵明

8月13日、僕たち12団は、8時、倉庫前に集合した。そこで荷物の積み込み作業をし、9時、和地山公園に集合した。次第に、他の隊も集まって、10時、渋川に向けて出発した。

キャンプ地について、まず、昼食をとり、開所式が行われた。それから、設営が始まった。テント2張り、立ちかまど、食堂をつくり、夕食の準備にとりかかった。

夜、光・音・触覚・臭覚等のテストをやった。

翌日、昨夜行われたテストの表彰が行われた。12団が1位で表彰された。

朝礼後、午前中は、食事の用意、設営の続行をし、午後、特修章の獲得が行われた。

14日の夜は、キャンプファイヤーが行われた。みんな、スタンツに一工夫されていてとても楽しかった。

翌、15日、西部ブロックキャンポリー最終日には、自由コーナーが設けられた。僕は、終りごろになってから、弓のコーナーに行った。

昼食は、かんづめ、カップヌードルですませ、撤収開始。途中、雨がパラパラきたので急ぎ、いつもより早くできたと思う。

そして閉所式。国旗をおろし、隊長等の話があり、終わった。

西部ブロックキャンポリー

浜松第7団カブ隊 板倉忠広

8月の10日、11日、12日の2泊3日のキャンプ。春野町の宮

川で、キャンプすることになった。バスの中で歌の練習をした。春野町につき昼食をとった。それでソフトボールなど、いろいろやった。

前の日に、雨がふって、川で泳げなかったので、沢で遊んでいました。水が冷たくて、泳げませんでした。こんなに、冷たい水は、浜松で味わえないと思った。

次の日に、ヒッチハイクをやり、長きりを歩くとしたらあんがい短きりだった。帰ってきたら、父兄が流しそうめんの用意をしていた。そうめんを食べたら、とてもおいしかった。

夕方に、飯ごうすいさんをやった。ぼくのが、こげていると思ったら、すこししか、こげていなかったもので、よかったです。夕食をしたら、とてもおいしかったです。

暗くなって、キャンプファイヤーをやった。いちばんおもしろいと思ったのは、リーダーたちのインディアンのおどりです。

次の日に、前のカブの隊長のつばいさんが、ロープ結びを教えてくださいました。わかりやすく教えてくれたので、すぐわかりました。

ロープ結びが終って、ゲームをしました。いろいろなゲームの結果は、ぼくらは4位でした。ぼくら2組は、2人少ないからでないかと思った。

帰りに、みんなバスの中でねてしまいました。また、こんども来たいと思います。カブスカウト最後のキャンプで、とても楽しかったです。



インディアンの歌を

春野町キャンプ

浜松第7団カブ隊 長内明

キャンプへ行く前の日は大雨だったので、あした行けるかなーと心配した。当日は晴れてとてもあつい日になった。わすれものがないかしらべて集合場所に行った。そしてバスに乗り込んで走り出した。山に川ぞいに。川ぞいに走ったとき川の中に大雨で流された根のついた木がたくさん目についた。2日目、追せきハイクをした。ぼくたちの組長が、じゃんけんに負けたので、いちばんそんなみどり色になった。ぼくは草や木の葉やいろいろさがしたが(こりゃーないよー)と思った。みんなでいっしょうけんめいさがしたがみつからなかった。ぼくたちの組はいちばんびりになった。こんどのときはがんばる!そしてひるから工作を作った。ぼくたちはトーンボールを作った。良いのができ上った。その次、ぼくたちではんごうでごはんをたいた。はじめは火がよくつかなかったけれど、あとになったらよくもえた。ごはんはこげもなくとてもおいしくたけたヨシ。そして夜にキャンプファイヤーをやった。ぼくたちは練習しておいたかえ歌やすんげきをやった(うまくいってうまくなかったみたい)。火が赤々ともえ、みんなをうつし出して楽しかったなー。3日目の朝にロープむすびや風せん割りゲームをやった。ねむれなくてつかれたけれど楽しいキャンプだった。

青少年の家キャンプ

浜松第7団カブ隊 野沢 純一

4月17日に、青少年の家に、とまった。

ぼくが、一番、楽しかった事は、すばこを、作った事です。北川隊長が、組ごとに、大工道具を、くださいました。

中に、いろいろ道具が、入っていた。

はじめは、のこぎりで、木を切って、うまくいっていただけど、丸くあなを、あける所で、2回も、木が、われて、しまいました。

それで、おとうさんが「木が、うすいから、すぐ、われてしまうんだよ。」と、言いました。

ぼくは、（そうかなあ。）と思った。

こんどは、「またしっばいすると、いけないから、すみの方を、四角に、切って、そこを、小鳥の、出入口に、しよう。」と、おとうさんが、言いました。

そしたら、森川君が、「もうすこしで、2組は、すばこが、できるよ。」と、言った。

ぼくは、（はやいなあ。）と思った。

おとうさんが、「がんばれよ、遊んで、ないで、てつだえ。」と、ぼくに、言った。

ぼくたちの、すばこは、2組の人たちが、できて、10分後にやっ、と、できた。

2組が、作ったすばこは、すごく大きかった。

「すごいなあ。」と、ぼくは、言った。

のこぎりの、つかいかたは、すごくむずかしかった。

みんなで、作った、すばこは、かっこわるいけど、きっと、小鳥は、はいってくると、いいなと、思った。



ソフトボール試合

舎えいについて

浜松第7団カブ隊 木原 克美

舎えいの中で一番たのしかったのは、すばこ作りです。なぜかと言うと、ノコギリや、カンナなど、いろいろなものを使ってやるからです。だけど、すばこ作りは、はじめてなので、「しっばいしないかな。」と、思い「うまくいけばいいけどなあ」と、思いました。

それではじめは、今どこをやっているのか、さっぱりわからず板くら君のおじさんがきて、いろいろきいたり、カンナでけずったりしました。できあがったのは、たて長いすばこです。

ぼくは「たくさん鳥が入ってくればいいな。」と思った。

それに、ぼくの弟は、舎えいがはじめてなので、着がえたり、早く起きたり、夜おそくまで起きとかなければいけないので、「できるかなあ。」と、ぼくは心配した。しかし、弟は3年なので、これぐらいはできないとはずかしいと思う。

夜は、みんながうるさくねむれなかった。

「これはみんなのせき任だなあ。」と、思いました。

それは、いくら岡野君とか鳥君がうるさくても、ぼくは組長なので、せき任があると思いました。

楽しいことがいっぱいありました。

巣箱作り

浜松第7団カブ隊 中谷 雅和

ぼくは4月から組長になった。組長になったのだから、せきんにんをもって行動をしなくてはならないと思った。そして17日に青少年の家に舎営をした。18日になると、巣箱作りをした。ぼくのおかあさんと中野君のおじさんにおばさん、などの人が手伝ってくれた。ぼくは中野君のおじさんに、のこぎりのじょうずな切り方をおしえてもらったり、くぎをうったり、長さをはかったりした。そしてみんなができるように、のこぎりを切るにしても、くぎをうつにしても順番に切ったりうったりした。だがやはり、のこぎりで切るのはぼくがおもだった。くぎはぼくがまず最初にくぎを少しかんたんにうってから付ける木の上にのせてはじの方の四つをうってから、みんなうっていない人からうっていった。やることがないと遊んでいたりして、えだの小さなものの先の方をけずっていたが巣箱作りになるとちゃんときた。だがぼくはあまりいいとは思わなかった。

それは、そのときだけいくのではなくて、大人のやることをみていればナイフだって安全に使えてケガもないだろうと思うのに、みていないでやるとケガがいつあるかわからないから、いいと思わないのだ。

みんないっしょうけんめいやって、やっ、とできたときはとてもうれしかった。ちょっとへんなところもあったが、これだけできればじょうぶんだと思った。



目的地までもうすぐだ

キャンプ

浜松第7団カブ隊 鈴木 洋

カブスカウト7団で、8月10日から13日まで、しゅうち郎春の町の青年自然の家に、キャンプに行きました。

ぼくがキャンプに行って一ばん楽しかったことは、11日の夜あたご川のかわらで、キャンプファイヤーをしたことでした。

木を井形に並べ、かがり火のぎきを、しました。

4組は「ホネホネロック。」で、歌は「線路はつづくよどこまでも。」です。

火はいきおいよくもえて、まわりにいる人たちのかおは、みんな、まっ赤でした。あせが、だらだらでできました。

隊長や、ふく長が、インディアンのかっこうをして、おどりました。

「カブスカウトのみなさんも、おどって下さい。」と、いったのでおどりました。

「ぼくもうアメリカに帰ります。」と、いって帰りました。

3くみの東村山音どは、みんなでおどりました。ぼくも出ておどりました。

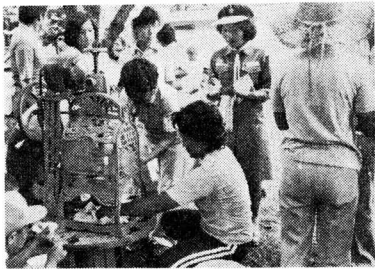
最ごにジュースとおかしをもらいました。

今夜は楽しかったなあ、と、思いました。

隊 舎 営

浜松第4団カブ隊 鈴木達志

8月21、22日、23日は、カブスカウトで、西気賀の公民館に舎営に行きました。浜松からバスで、1時間ぐらいな所です。着いたら、バスをおりて、荷物をおきにいった時に、ぼくは、川がきれいだなあーと思いました。そして、隊長が自由だったので、ぼくは、川に魚をとりにいったら、ぜんぜんとれなくムカーとしてしまいました。そして最後の日、ぼくは、もう一ど川にはいりました。今度は、上流に行き、高倉君と杉本君ととりにいきました。高倉君が、かわらをどかしたら、はぜが、屋ねをしていました。そっと、つかまえようとしたら、すぐににげられてしまい、ぼくは、かわらをけとばしました。もう一つのかわらをあげたら、また、はぜが、屋ねをしていて、今度は、小さいので、つかまるかな、と思ったら、さっきよりすばやくにげられました。こんどは、ぼくが、かわらを、どかしたら、大きいはずがいて、つかまえようとして、水の中に手をいれたとたん、にげられました。ぼくは、ねているのに、どうして、わかるのか不思議に思いました。その時、集合のふえがなり、けっきょく一っぴきもとれませんでした。ぼくは、とてもくやしき思いました。その時、ぼくは「今度、一っぴきのこらずとってやるぞ」と思いました。今度は、あみをもっていこうと思います。



おいしい氷かき

西気賀隊舎営

浜松第4団カブ隊 溝口純生

ぼく達の舎営が、2泊3日で浜名湖の西気賀で行われました。そこには、横に川が流れていて湖の近くにあるとてもいい所でした。

1日目は、川で遊びました。川は、浅くきれいな水が流れ、はやが群れを作って泳いでいました。ぼくは、コチ1ぴきとヤゴ2ひきをつかまえました。コチは、2人で協力してつかまえました。ぼくは、ビニールでかまえて友達に草の上をけつもらい、ぼくのいる方へにげて来る魚をビニールですくい上げます。川遊びは楽しいです。

夜は、花火をしました。花火はとても楽しいです。光は、湖にうつり、音は広い湖にすいこまれていきます。7連ばつ、ねずみばくちく、みんなおもしろかったです。

2日目、気持ちのいい朝でした。1時間の道のりを歩いて佐久米海岸で貝取りや海水浴で遊びました。

夜、キャンプファイヤーをしました。ぼくたちのスタンツは「土星人のはんらん」です。歌を歌ったりゲームをしたり楽しい一時をすごしました。

3日目は、ハイキングで山に登りました。とちゅうで浜名湖全体が見えました。とちゅうまでは、たいへんでしたが上の方へ行くにしたがって木が多くなりすずしくなりました。

さいごの中食は、ハンバーグとスパゲティでいちだんとおいしかったです。自由時間の川遊びの後、浜松に向かうバスに乗りました。

ついせきハイク

浜松第19団カブ隊 富田明秀

8月30日、きょうは楽しいツイセキハイクをやりしました。

みんなむねがどきどきだ。ぼくは、もう二回めのツイセキハイクなので、ぼくは、あんまりこわくはない。「さあしゅっぱつだァー」と声をあげ出発です。山の中をぼくたちは、『そっちしっかりさがせ』と声を出して進んで行く。「あったァー」「こっちもあったよォー」とみんなが言っている。ぼくたちの組は、20こ21、22、23、24とどんどんみつかる。とちゅうで友だちが『まあむりだな』と言った。だけど、お婆さんがはげましががんばった。もうすぐおわりだ。「あと三つたりない、こまった」「あと一っこ」「やったァーこれでぜんぶだ」と言い隊長の所へとんでいった。「やった」ぼくたちは、一番でした。またぼくがきた時にはもっとおもしろい日にしたいなと思いました。とても楽しい日でした。



朝礼 げんしゅくに

ついせきハイク

浜松第19団カブ隊 小沢由法

八月三十日、ツイセキハイクをや。ぼくたちは、5番目に出了。はじめのうちは、なかなかかんたんに通りすぎたが、とちゅう、やじるしがなかったで、よくみんなでさがしたら、草の根っこが山の方にむかっていたので、山の中へはいった。するとおじさんがこんどは、ぬのがでてくるよといったので、みんなでさがした。すると、ところどころから赤と黄色のぬのが出てきた。さいごのたからの国でぼくたちは、69点だった。また、とってきたぬのも、ちゃんと30こあったので、あんしんした。とくてんをみてみたら、二いだったのうれしかった。また、いつかツイセキハイクをやりたいと思います。

楽しかったしゃえい

浜松第19団カブ隊 松本典浩

ぼくたちは、8月の29、30日に、1ばく2日のしゃえいをした。

きのうのキャンプファイヤー、きょうのついせきハイクは、特に楽しかった。でもキャンプファイヤーは、ぼくたちのげきがでなくてとても残念だった。

夜、いつまでもねなかったり、多ぜいでドタドタトイレに行ったりして、隊長にしかられてしまった。これからは、人にめいわくをかけないように気をつけようと思った。

ついせきハイクは、今までとちがい、毛糸を拾ったり、ロープで、急なしゃ面を登ったりして、とてもよかった。

ぼくは、このしゃえいで、けいけんした、楽しかったこと、よかったなあと思ったことを、これからのくらしに生かそうと思う。

入賞者発表 第1回ボーイスカウト写真コンテスト

【一般の部】

推選 キャンプファイヤーが始まるよ
水 野 和 重

特選 もえろよ営火 坪 井 愛 三
 〃 かたらい 山 中 洋 一
 〃 四人五脚 島 津 嘉 光
 〃 ボーイに向かって飛べ 中 谷 好 子
 〃 三ヶ日青年の家キャンプ 田 中 正 和

入選 ぼくの組の紙芝居 中 谷 好 子
 〃 ポイントをめざして 河 原 崎 敏
 〃 さあ行こう 山 口 照 司
 〃 お母さんしっかり 後 藤 守 利
 〃 迷カメラマン 前 田 穂 積
 〃 隊旗群集合 内 田 時 世
 〃 輪になって 島 津 嘉 光
 〃 ウッドバッヂ実修所の朝 宮 沢 広 士
 〃 夕 食 水 野 和 重
 〃 ボーイスカウトの料理教室 水 野 和 重

佳作

国際親善	後 藤 守 利	つかまえた	島 津 嘉 光
僕らの仲間	水 野 和 重	ワッショイ	齊 藤 節 男
配 膳	島 津 嘉 光	リーダーのロープ手品	中 谷 好 子
リーダーを囲んで	島 津 嘉 光	DMの作ったカレーライス	中 谷 好 子
式 典	鈴 木 孝 志	ありがとう	中 谷 好 子
食事当番	鈴 木 孝 志	お、つめたい	内 田 時 世
さ、舟	太 田 進	大成功	内 田 時 世
朝 げ	坪 井 愛 三	どんとこい棒倒し	中 村 勝
ドリル演奏	宮 沢 広 士	炊事当番	島 津 嘉 光
おなががいっぱい	水 野 和 重	友情交換	中 谷 好 子

【スカウトの部】

特選 サアー出発だ 堤 崎 直 人
 〃 やったぜハイク 名 倉 孝 次
 〃 県大会一同敬礼 山 中 将

入選 キャンプでの料理 内 山 忠 洋
 〃 野営地での結索 中 西 浩
 〃 初級を指導する一級スカウト 近 藤 竜 太 郎

佳作

ロープむすび	浅 井 邦 彦	県大会ファンファーレ	柳 井 健 仁
県大会でのたこ上げ	伊 藤 浩 光	休けい中指導する隊長	神 谷 宣 則
行 進	伊 藤 陽 通		

入賞作品展 第1回B S写真コンテスト

—高倉清雄ジャンボリー写真展—

時 10月15日(金)より 10月20日(水)まで

所 西武百貨店浜松店ギャラリー

◎入賞者表彰式 10月17日(日)午後2時 西武百貨店屋上

う ご き

日 付	内 容
51. 7. 1	国際キャンプスタッフ派遣 浜松第6団寺田リーダー出発
3	コミ・事務長会議(静岡県民会館)
4	浜松第11団C・S隊審査(遠鉄健保会館)
5	ヨット委員会(法林寺)
8	地区組織拡張委員会(法林寺)
10	S・Sリーダー会(法林寺)
11	団委員研修会(市立青婦人会館)
18	浜松第11団C・S隊発隊式(遠鉄健保会館)
20	アメリカ建国200年記念スカウト派遣出発 鈴木(1)・那須田(10)・青島(15)
25	アメリカ・ヒルモント派遣スカウト10名壮途祝賀会(法林寺)
28	ヒルモント派遣スカウト出発
7/31~8/5	東京都学童会指導 浜松4・20団S・S
8. 1	51年度地区大会々場下見(浜北森林公園)
3	地区内コミ・事務局会議(法林寺)
8/5~8/8	S・Sアドベンチャーキャンプ第5回 (富士グリーンキャンプ場)
〃	アマチュア無線講習会(市立東部公民館)
8. 11	団委員長・野営行事委員会合同会議(法林寺)
8/12~8/15	アマチュア無線講習会(市立青少年の家)
8. 26	ヨット委員会(法林寺)
27	地区内コミ・事務長会議(法林寺)
8/24~8/26	地区内リーダー対象ヨット講習会(寸座マリーナ)
9. 4	コミ・事務長会議(静岡漁磯)
9. 14	野営行事委員会(法林寺)
16	名誉会議(法林寺)

51. 9. 20 訓練チーム打合せ会議(法林寺)
 26 昭和51年度B・S、G・S浜松地区大会
 (浜北森林公園)
 27 J・O・T・A打合せ会議(法林寺)

あ と が き

◎高倉隊長さん二科賞おめでとうございます。ジャンボリー写真展も同氏のご好意で開催されます。ブルーインパルスもスカウトを写しても彼は第一級の写真家である。

◎写真コンテスト応募につき皆さんのご協力ありがとうございます。成人の部の応募数は大体予定通りであったが、スカウトの部は非常に少く入賞者数を予定より少くした。次回はもっと多数のご応募をお願いしたい。

◎コンテストにご後援下さった各会社に厚くお礼を申し上げます。

◎本号は西部小地区担当にて海外派遣スカウト、報告、夏期のスカウト活動等を主に編集しました。次号第66号は、浜北、引佐ブロックにて52年1月号として発行予定です。ご期待下さい。

発 行 所

第65号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 編集発行責任者 山 中 将 司
 印刷所 朝 日 堂 印 刷 所
 昭和51年10月1日発行